

龍谷大学 大学教育開発センター通信

Ryukoku University
Center of Educational
Development Report

2013

02



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

大学教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日: 2014年3月 編集・発行: 龍谷大学 大学教育開発センター



■FDフォーラムの様子

22号館2階、3階エレベーターホールにて2011年度及び2012年度自己応募研究プロジェクトの最終報告パネルを展示しました。

多くの方に興味関心もって観覧いただきました。



2013, Number 02

CONTENTS

p3

2013年度FDフォーラム開催報告

p4

学生FDサロン開催報告

龍大生の考える龍大ブランド～龍大の強みって？～

p6

2013年度大学教育開発センター事業内容

p8

2013年度自己応募研究プロジェクトポスター展示のご案内
2013年度指定研究プロジェクト成果報告

2013年度FDフォーラム開催報告

2013年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」の基本的方向性の一つに「社会を生き抜く力の養成」があげられたことを受け、大学が教育や研究、社会貢献活動等を通じて、「社会を生き抜く力」を身につけさせるのが重要な課題となっています。

2013年度FDフォーラムは、「社会を生き抜く力を育てるために」を大テーマに据え、大学コンソーシアム京都と共催し、2つのシンポジウムと13の分科会を2月22日(土)、23日(日)の2日間に渡り開催しました。



開会挨拶をされる赤松学長

大学教育開発センター長である長谷川岳史先生がコーディネーターを務め、政策学部の土山希美枝先生の他、山本繁氏(NPO法人NEWVERY理事長)、山内乾史氏(神戸大学教授)に講演頂きました。

講演は大学で深刻な課題となっている「学力低下の課題」や「中退者問題」等を踏まえて、これらの現状の共有とそれに対応した実践、課題発生メカニズム等について大学教員、NPO関係者の立場から発表いただきました。

土山先生からは、早期に入学が決まった高校生を対象に政策学部が独自に行っている、体験型プログラム「Ryu-SEI GAP TERM」について、実際に学生が作成した新聞等を資料で紹介いただきました。また、中退者問題について講演頂いた山本氏は、様々なエビデンスを基に、大学独自の教育に注力すべき様々なことを提言として報告いただきました。

会場は400人ほどが座れる教室がすぐに満席となり、多くの教職員の方に興味関心を持ってご参加いただきました。



■各分科会の様子

13の分科会が行われ、各分科会様々なテーマでの報告及びワークショップが行われました。

第5分科会「教育活動に果たす理想的な環境とは—短期大学での取り組み事例を中心に—」では、短期大学部の和田幸子先生から本学短期大学部の事例について報告いただきました。

報告では、21号館地下1階の実習施設を昼休みにも開放したことで、授業制作課題の取り組みや授業でのグループ発表の話合いが自主的に行われるようになったこと等紹介されました。



講演内容の詳細につきましては、「第19回FDフォーラム報告集」(2014年6月中旬頃大学コンソーシアム京都より発行予定)にて紹介予定です。

学生FDサロン開催報告

龍大生の考える龍大ブランド ～龍大の強みって？～

学友会選挙で選ばれた代議員によって構成される9学部合同学生会では、学生のより良い正課環境向上を目的とし、学生目線で自身の学びについて考える、学生FD活動が活発になってきています。大学教育開発センターでは、学生の主体的な学びをサポートするため、昨年より9学部合同学生会と連携を深めてきました。

2013年12月5日、各学部代議員から校正される学友会組織、9学部合同学生会及び学友会中央執行委員会正課局の皆さんと大学教育開発センターが協力し、昨年度に引き続き「学生FDサロン」を開催しました。

今回は「龍大生の考える龍大ブランド～龍大の強みって？～」というテーマで、普段何気なく通っている大学を、自分たちがどのように感じているのか、また、周囲からはどのように受け止められているのか等を話し合い、本学の強みや取り組むべき課題について意見を共有しました。

大学教育開発センターでは今後も学友会中央執行委員会正課局及び9学部合同学生会との協力を継続し、本学における教育のあり方、教職員及び学生が取り組むべきことについて学生と共に検討を進めていきたいと考えています。



9学部合同学生会代表
安田 浩崇

私は今回初めてFDサロンに参加させて頂きました。FDという言葉も当時はあまり理解しておらず、ただグループディスカッションに参加しただけになってしまいましたが、その中でも沢山のことを得ることが出来ました。

龍大からイメージされるものをグループで議論していく中で自分だけでは思いつかないようなことがどんどん出て来てきました。一人では限界があることでも色々な人と交流していくことで新しい価値観や考えに触れそのことで自分の視野が広がっていきんだなと実感しました。

この企画に参加して感じたことですが、私、含め今の学生に必要なのはとにかく目標を持つことではないかということです。

龍谷大学に入学した自分はどうなりたいのか。その目標のためにはどのような段階があって、何をすべきなのかをしっかりと考える必要があると思います。大学生活は勉強以外にも様々なことをやることの出来るチャンスです。その意識づけとして大学の建学の精神やスローガンを使っていくのはいいのではかと思えます。

そのためにも今回のような企画があることをより沢山の学生に伝えて参加を促すことが大切だと思います。





法学部執行委員長
茂木 穂波

私は9学部合同学生会代議員として学生FDサロンに参加しました。グループに分かれて話し合い最終的に全体での意見交換を行う形式で、テーマは「龍大生の強みとは何か」というものでした。学生同士でそれぞれの意見を伝え合い、自分の考えとは違った新しい視点に共感することもできました。多かった意見は、大学の雰囲気やキャンパスごとに異なり学生の個性が様々で良いということや、他大学と比べると積極的な学生自治が行われているのではないかと感じました。一方で、学生の正課に対する意識の差が問題点として挙げられ、学生ひとりひとりが自分の目標を明確にして意欲的に学んでいく必要があると感じました。

今回のように、学部を超えた学生同士での話し合いをすることで大学へのそれまでのイメージや正課環境への関心も高まると思います。今後もこのような機会には積極的にしようと感じました。



理工学部執行委員長
樋栄 潤樹

今回の学生FDサロンでは、「龍大ブランド」というテーマで、少人数の班での討論を行いました。その際、結論を導くために段階をいくつかに分けて考え、それを繋ぎ合せていくという形式で行いました。

この方法では、話し合いの方向性が最初に明確になっていたため、最終的な意見をまとめることも比較的スムーズに行えたと思います。また、段階ごとに班の全員が必ず一度は発言し、また他の人の意見はしっかり聞く、という目標をしっかりと達成することが出来たと考えています。

今回の討論では、面識のある人もいましたが、初対面の人もいたため、最初は妙な緊張感がありました。しかし、同じ「龍谷大学生」という立場で、お互いが意見をしっかりと伝えることが大切であると感じ、また相手の意見を尊重し深め合うことで、違った角度から物事を捉えることが出来たと思います。

今回体験したことを今後の生活の中でも生かすことが出来たらと思うと同時に、次回またこのような機会があれば参加したいと思いました。



2013年度大学教育開発センター事業内容

1. FD・教材等研究開発検討プロジェクト

<指定研究プロジェクト事業>

テーマ	代表者	共同研究者
教育活動を支援するための各種情報の活用方法	津島 昌弘 (社会学部)	樋口 三郎(理工学部)、長谷川 岳史(大学教育開発センター長)、若林 雅子 (教学部課員)
学生の主体的な学びのコミュニティにおける学修支援機能の研究	出羽 孝行 (文学部)	築地 達郎 (社会学部)、谷 直樹 (経済学部)、長谷川 岳史 (大学教育開発センター長)
大学院 FD の課題	クラブチック・マリウシュ (経済学部)	外村 佳伸 (理工学部)、清水 耕介 (国際文化学部)、長谷川 岳史 (大学教育開発センター長)、河村 由紀彦 (教学企画部課長)

<自己応募研究プロジェクト>

テーマ	代表者	共同研究者
子育て家庭への援助技術を育成する教材の研究・開発 —保育者養成/教職課程における家族援助力の育成を目指して—	赤田 太郎 (短期大学部)	生駒 幸子 (短期大学部)、中根 真 (短期大学部)
福祉・教育における児童文化の学修を深める取り組み —こどもの豊かな児童文化環境をデザインするために—	生駒 幸子 (短期大学部)	
専攻科目を英語で講義するための基礎的研究	木下 徹弘 (経営学部)	小瀬 一 (経済学部)、加藤 正浩 (経営学部)、藤岡 章子 (経営学部)、楢塚 賢太郎 (経営学部)、小長谷 大介 (経営学部)、WHITE SEAN ALLAN (経営学部)、秋庭 太 (経営学部)
テキスト『ドキュメンタリー映画制作講座』の作成	小林 直明 (社会学部)	原 一男 (社会学部・非常勤講師)、長岡 野垂 (社会学部・非常勤講師)
文学部臨床心理学科における「新入生用学びのテキスト」の作成	小正 浩徳 (文学部)	吉川 悟 (文学部)、東 豊 (文学部)、武田 俊信 (文学部)、吾勝 常行 (文学部)、友久 久雄 (文学部)、森田 喜治 (文学部)、滋野井 一博 (文学部)、児玉 龍治 (文学部)、赤津 玲子 (文学部)
ポジティブ心理学論に基づくメンタルヘルス脆弱性の強化	須賀 英道 (保健管理センター)	藤木 美奈子 (短期大学部)、赤田 太郎 (短期大学部)
大学生の系列化能力向上支援 —ユニバーサル・プログラムの構築を目指して—	武田 俊信 (文学部)	郷式 徹 (文学部)、小正 浩徳 (文学部)
大教室講義における学生の「参加度」向上に向けての研究	畠山 亮 (法学部)	
eラーニング グッドプラクティス共有プロジェクト	樋口 三郎 (理工学部)	井ノ上 智啓 (情報メディアセンター)、上原 徹 (理工学部)、高田 文彦 (情報メディアセンター)、中西 麻里 (情報メディアセンター)、丹羽 奈緒子 (情報メディアセンター)
メディア制作研修への学生派遣による教育への波及効果の検証	八幡 耕一 (国際文化学部)	

自己応募研究プロジェクトポスター
展示期間:2014年
3月24日(月)~
4月5日(金)

2. 教育活動評価支援プロジェクト

<学生による学期半ばの授業アンケート>

対象科目:2013年度第1学期・第2学期全開講科目

学期	実施期間	利用枚数
1学期	2013年6月3日~6月15日	21,106枚
2学期	2013年11月11日~11月23日	13,521枚

<学生による学期末の授業アンケート>

対象科目:2013年度第1学期・第2学期開講の外国語科目及び講義科目

※理工学部については、上記科目に加え、演習、講読、実験・実習、実技・実習、大学院科目及び大学院との合併科目についても実施した。

学期	実施期間	対象科目数	実施科目数	実施率
1学期	学部:7月10日~28日 短期大学部:7月6日~19日	2,273	1,815	79.9%
2学期	学部、短期大学部:2014年1月6日~19日	2,263	1,744	77.0%

2013年度は文学部及び政策学部において、新教学システムを利用した「学生による学期末の授業アンケート」をWebを用いて実施しました。
(第1学期:2013年7月6日~8月7日、第2学期:2014年1月6日~1月31日)

3. 交流研修・教育活動研究開発機能プロジェクト

<教育職員の新任者就任時研修会の実施>

開催日	研修名	講師
4月1日・2日	2013年度新任教員対象就任時研修	佐藤 研司(副学長)、元山 健(研究部長)、長谷川 岳史(大学教育開発センター長)、鶴野 善久(REC事務部次長)
7月25日	シラバスに関する研修会	中井 俊樹氏(名古屋大学)
8月9、10日	FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)	私立大学連盟
9月19日	2013年度新任教員対象フォローアップ研修	長谷川 岳史(大学教育開発センター長)
12月20日	Webシラバスに関する研修会	中井 俊樹氏(名古屋大学)

< FD サロン >

開催日	研修名	講師
12月5日	龍大生の考える、龍大ブランド ～龍大生の強みって?～	九学部合同学生会による運営
2月26日	自校史教育の現状と課題 一立教大学に学ぶ一	豊田 雅幸氏(立教大学、立教学院展示館設置準備室)

※1 2月26日の「自校史教育の現状と課題 一立教大学に学ぶ一」は教育学部所管事業である教養教育・学部共通コース FD 研究開発プロジェクト「『大学論』と自校教育」と共催で行いました。詳細はFD サロンレポート13-2で紹介します。

< FD フォーラム >

開催日	内 容
2月22日(土)	<p>13:15～17:10</p> <p>【シンポジウムⅠ】3号館301教室 テーマ：京都発！地域社会まるごと学習コミュニティ ー共に育ち、共に学び合う社会を創るー コーディネーター：河原 宣子氏(京都橋大学 教授) 講演者：大谷 芳夫氏(京都工芸繊維大学 理事、副学長) 堤 大地氏(第11回京大学生祭典実行委員会委員長、立命館大学政策科学部3回生) 古瀬 ゆかり氏(京都市総合企画局 市民協働政策推進室 大学政策担当部長) 猪股 志野氏(文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室長)</p> <p>【シンポジウムⅡ】3号館201教室 テーマ：未来を切りひらく学生を育てるには コーディネーター：長谷川 岳史氏 (龍谷大学大学教育開発センター 教授) 講演者：山本 繁氏(NPO法人NEWVERY 理事長、日本中退予防研究所所長、中央教育審議会高大接続特別部会臨時委員) 山内 乾史氏(神戸大学大学教育推進機構教授) 土山 希美枝氏(龍谷大学 准教授)</p>
2月23日(日)	各分科会テーマ
10:00～15:30	<p>【第1分科会】オープンエデュケーションを生かしたFDと教育改善</p> <p>【第2分科会】学生同士の支えあいを促進し、コミュニティを元気にする学生支援 ー学生の居場所としてのピア・サポートー</p> <p>【第3分科会】大学教育をめぐる環境変化と教養教育</p> <p>【第4分科会】大学図書館からの学修支援</p> <p>【第5分科会】教育活動に果たす理想的な環境とは ー短期大学での取り組み事例を中心にー</p> <p>【第6分科会】大学の授業デザイン・授業改造の新しい形 ー授業の見学者や協力者と創るー</p> <p>【第7分科会】授業アンケートと教育の個性化</p> <p>【第8分科会】体験型学習の現状と課題</p> <p>【第9分科会】授業のパラダイムシフト</p> <p>【第10分科会】大学におけるライティング指導の諸問題</p> <p>【第11分科会】異文化理解と多文化交流を深める授業の計画と実践</p> <p>【第12分科会】産学協同でグローバル人材を育成するには</p> <p>【第13分科会】発達障害学生の支援 ー社会と「ツナグ」ー</p>

< FD 報告会 > ※ 2013 年度第 1 号掲載より更新

各学部が活発な取り組みを行い、全学でその内容を共有しました。FD 報告会以外でも、各学部独自の取り組みが年々盛んになっています。

開催日	学 部	テ ー マ
4月3日	法学部	「基礎演習Ⅰ」担当者会議
4月24日	法務研究科	2013 年度 FD 活動の課題について
5月22日	経済学部	経済学部 入学準備サポートプログラム実施結果について 経済学部専攻科目「経済学の技法」における取組について
	理工学部 理工学研究科	理工学部カリキュラム勉強会
5月29日	実践真宗学研究科	東北大学大学院文学研究科 実践宗教学寄附講座「臨床宗教師」養成の取り組みの意義と目的
	法務研究科	2013 年度司法試験と本学法科大学院教育についての検討 他
6月5日	社会学部	入学前教育から見る社会学部新入生の傾向
6月26日	経営学研究科	経営学部と通じた大学院での情報処理教育
	法務研究科	2013 年度司法試験と本学法科大学院教育についての検討 他
7月3日	経済学部	相談室カウンセラーの保護者対応について
	文学部	退学者数の抑制を目指して
	法学部	龍谷大学法学部を取り巻く入試環境について
7月10日	経営学研究科	経営学研究科における学位審査論文審査基準等の明示について
	国際文化学部	FD 研修会
7月17日	経済学部	2013 年度 経済学部における就職活動状況について
	法学部	2014 年度に向けた学部教育の取組みについて
9月11日	法学部	「基礎演習Ⅱ」担当者会議
9月25日	法学部	法学部進路実績について
10月23日	経営学部	2013 年度プログラム科目実施報告会
	経営学研究科	経営学研究科留学生インターンシップ報告会
11月13日	政策学研究科	「地域公共政策士」のフレームワークを生かした大学院教育
	法学部	法学部グラウンドデザイン委員会(第一次) 答申について
11月20日	法学部	新たな法曹養成の方策にかかる検討会について
11月27日	文学研究科	文学研究科における学位論文審査および研究指導について
12月4日	理工学部	学部・大学院一環のグローバル教育プログラムの展開
	理工学研究科	
12月11日	社会学部	コミュニティマネジメント学科におけるFDの取り組みについて
12月18日	経営学部	実践講座・放送メディアの実際と論理 から見るメディア・リテラシー
1月9、16日	短期大学部	フィリピンの生活実態と国際福祉コースへの期待
	国際文化学部 国際文化学研究科	これからの大学院での教育について
1月15日	経営学部	体験型学習の現状と課題
	国際文化学部	国際文化学部 卒業論文合同発表会
1月22日	文学部	退学者数の抑制を目指して ー日本中退予防研究所の取組からー
2月25日	短期大学部	どうして「仏教の思想」が必修科目なのですか? : 専門科目における学びとの関連から
3月14日	政策学部	大学間連携協同教育推進事業関連科目及びフィールドワーク系科目の開発
	法学部	教育活動を振り返って

<公開授業と講評会> 文学部：2件、経営学部：1件、法学部：1件、理工学部：1件、社会学部：1件、国際文化学部：1件

2013年度

自己応募研究プロジェクト ポスター展示



RYUKOKU UNIVERSITY
CENTER OF EDUCATIONAL
DEVELOPMENT

大学教育開発センターでは、1998年より、教育方法や教材等に関する研究を支援する、「自己応募研究プロジェクト」を実施しています。

2013年度は10件のプロジェクトを採択し、各プロジェクト様々な研究活動に取り組んで頂きました。その研究成果を共有するために、深草学舎及び瀬田学舎においてポスター展示を実施します。

開催期間：2014年3月24日（月）～4月4日（金）

場 所：深草学舎 紫英館1階講師控室前ロビー
瀬田学舎 1号館1階エントランス

**「コメントシート貼付ボード」を設置し、ご覧いただいた教職員、学生の皆さんのコメントを共有します。
各プロジェクト、たくさんのコメントお待ちしております。**

2013年度指定研究プロジェクト成果報告

大学教育開発センターでは、大学にとって必要な教育研究を行う指定研究プロジェクト事業を2004年度から実施しています。2013年度は3件のプロジェクトを推進しました。

1. 教育活動を支援するための各種情報の活用方法

本学では、学校基本調査や学校法人基礎調査をはじめとする複数の教学系調査を通じて、教学関連データの収集・蓄積が行われているが、そのデータを全学的に利活用する体制が整備されていないことから、まず既存の教学システム等にどのようなデータが収集・蓄積され且つ抽出可能なのかについて確認を行いました。

また、教学システム等から抽出可能な「成績（GPA）」、「卒業率」、「退学・除籍率」、「休学率」等と「入試区分」、「出身高校ランク」等に相関関係が見られるかを確認するとともに、全学的な比較・検証を行う上でのデータ収集・蓄積方法等の課題についても確認を行いました。

2. 学生の主体的な学びのコミュニティーにおける学修支援機能の研究

学生の主体的な「学び」という文脈で発揮させるために、本学に必要な「場」「空間」といったハード面や、どのような学修支援を行うことができるのかというソフト面の検討を行いました。

また、三重大学付属図書館や関西学院大学のアカデミックコモンズ等の先行大学を訪問し、運営体制や学生の利用状況、現状の課題等を他大学の事例から学び、本学におけるコモンズのあり方について検討しました。

3. 大学院FDの課題

2011年度より、大学院教育のニーズについて検討するための基礎的情報収集を目的とし、龍谷大学院生協議会と連携し、大学院生へのアンケートを行いました。また、3年間行った大学院FDの総括として、本学の大学院教育においてどのようなことが考えられるのかを検討しました。

各プロジェクト報告書は大学教育開発センターへお問合せ下さい。